

【報道関係各位】

2020年5月18日
一般財団法人 日本気象協会

日本気象協会、悪天候時の輸送安全を支援する物流向け新サービス 「GoStop マネジメントシステム」を提供開始 ～6月から9月の4カ月はトライアル無料期間～

一般財団法人 日本気象協会(本社:東京都豊島区、理事長:長田 太、以下「日本気象協会」)は、悪天候時の輸送安全を支援する物流向け新サービス「GoStop(ゴーストップ) マネジメントシステム」の提供を、2020年6月1日(月)から全国で開始します。

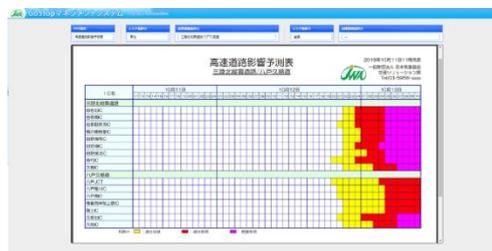
「GoStop マネジメントシステム」は、近年特に激甚化している気象災害に対して、物流事業者の方から事前に対策を行いたいという要望を受け誕生しました。「GoStop マネジメントシステム」は全国の高速道路を対象に、気象による輸送影響リスクを悪天候の72時間前から、地図や表によりひと目で確認できるWeb サービスです。各路線のIC(インターチェンジ)ごとに、1時間ごとの輸送影響リスクが詳細に把握できるため、悪天候時の配送計画の作成や輸送可否の判断、ドライバーの安全確保に役立ちます。

また、「GoStop マネジメントシステム」は国土交通省や経済産業省、農林水産省が推奨する「ホワイト物流推進運動」の取り組み(異常気象時の運行中止・中断の判断)や「異常気象時における措置の目安」に活用することもできます。

■「GoStop マネジメントシステム」情報提供画面イメージ



提供画面イメージ(図1)



提供画面イメージ(図2)

■「GoStop マネジメントシステム」の3つの特徴

1. 高速道路がどの場所でどのような気象現象によって輸送影響リスクが高いのか、ひと目で確認可能(図1)
2. 走行する高速道路についてICごとに、72時間先まで1時間単位の輸送影響リスクを表示(図2)
3. 台風が発生した際には、日本気象協会が保有する独自技術を使って示す詳細な台風進路予測や雨量、暴風予測などを、運行タイムラインに沿って台風上陸の最大7日前から提供

■「GoStop マネジメントシステム」サービス提供の背景と目的

平成30年台風第21号(関西地方で暴風被害)、「令和元年房総半島台風」(房総半島で暴風被害)、「令和元年東日本台風」(関東甲信～東北の広範囲で豪雨被害)、「平成28年福井豪雪」など、近年、激甚化した気象災害が相次いでいます。暴風によるトラックの横転、大雨による浸水、豪雪による車両スタックや「ホワイトアウト」などにより、ドライバーが命を落としてしまう事例も少なくありません。

働く人々の命を気象災害から守りながら、どんな時であっても社会的使命を果たそうと尽力する物流事業者の方を全力で支援するため、日本気象協会は「GoStop マネジメントシステム」を開発しました。安定した供給を行うために、被災リスクを最小限にするために、ドライバーの命を守るために、災害時にこそ止められない事業のために、本サービスを活用いただきたいと思います。



■「GoStop マネジメントシステム」について

・サービス利用対象企業

高速道路を利用し幹線輸送^{※1}を行う事業者の方を対象としたサービスです

※1 ある輸送拠点にそのエリアの荷物を大量に集め、その拠点から別の拠点に、大量輸送機関で運ぶこと

・サービス開始日

2020年6月1日(月)

・サービスの提供形式

Web サービスでの提供(ID、パスワード入力により利用可能)

・サービス利用料金

月額定額制 ※利用料金詳細は、お問い合わせください

なお、サービス開始にともない、トライアル無料期間を設けました。新型コロナウイルス感染症の影響で需要が急増している物流業界に貢献できるよう、台風シーズンの6月から9月末までの4か月間は無料でご提供いたします

・今後の展開予定

鉄道や主要国道の輸送影響リスクについて、2020年度冬期にサービス開始を予定しています

・サービスに関するお問い合わせ(法人向け)

日本気象協会 防災ソリューション事業部 営業課

Tel:03-5958-8143 Mail:gostop@jwa.or.jp

*報道関係の方は日本気象協会 広報室までお問い合わせください

・「GoStop マネジメントシステム」サービスロゴ



以上